

日刊建設産業新聞(2016年3月2日付2面掲載)
【オリコンサルら 焼津市役所で試行運用 統合型データベースなど】

**焼津市役所で試行運用
 統合型データベースなど**

オリコンサルら

オリエンタルコンサル
 タンツは、焼津市、名古屋工業大学と共同で、「統合型データベース」と「維持管理業務支援ツール」を開発しており、今後、焼津市役所関係部署で

これらの試行運用を行い、本格運用に向けた準備を進める。

3者は、14年度に統合型公共施設データベースを開発し、焼津市所有のほぼ全ての公共施設の基本データを整理した。



中野弘道焼津市長(右)と野崎秀則オリエンタルコンサルタンツ社長(左)

統合型公共施設データベースは、市が保有する公共施設を対象に、構造諸元、点検結果などのストック情報、利用人数、稼働率などのサービス

「統合型データベース」は、固定資産台帳の整備、施設の点検・診断や公共施設白書の更新を効率化し、施設再編計画など行政機能の強化に役立つものとなる。また、「維持

統合するもの。15年度には、「統合型データベース」を対象に、将来のまちづくりと公共施設等の管理、国土強靱化を戦略的に推進するツールとするため、更なる研究開発とシステムの機能強化を進めてきた。

更に、住民サービスの向上、橋梁点検の義務化対応などによって業務量が増加する道路インフラの維持管理業務を対象として、「維持管理業務支援ツール」を開発し、導入に向けた研究を進めてきた。

「維持管理業務支援ツール」は、データベースと「維持管理業務支援ツール」の連携させることで、自治体における手序的な施設管理を推進するための基盤となる。